

英語科学習指導研究委員会

一 テーマ

新学習指導要領に基づく、主体的・対話的で深い学びを実現するための
外国語活動・英語学習のあり方 ～小中連携を通して

二 テーマ設定の理由

小学校は、今年度から新学習指導要領が実施される。自主的・対話的で深い学びを実現するための英語学習が求められている。お互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動の工夫や、必要感のある場面設定、指導・支援のあり方について、小学校、中学校でそれぞれ実践を重ねていくことが必要である。

また、小学校5・6年生の授業では、チャンツや会話活動など音声を伴う活動だけではなく、文字を書く活動も取り入れられ、より四領域を意識したものとなっている。

一方、中学校としては年々受け入れる生徒たちの英語学習の経験内容が変わってきていることについて、十分に理解する場が少ない。昨年度も取り組んできたが、小学校・中学校それぞれがどのような学習活動を行っているのか、授業を互いに見て実態を把握し、連携していくことが、今まで以上に必要である。

外国語学習において、積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿を育てていくことはどの学習段階においても共通の課題である。そこで、小学校・中学校の職員が共通課題を意識しながら、指導方法を模索していくことで、より効果的な連携のあり方が見えてくるのではないかと考え、本テーマを設定した。

三 研究の経過

第1回 令和2年5月12日（火） 第1回委員会 研究テーマ設定と研究計画の作成（教育会館）
第2回 令和2年9月 3日（木） 第2回委員会 今後の研究の方向について（教育会館）

四 研究の内容および成果・課題

1 上田市立北小学校の実践に学ぶ

I 研究テーマ（北小 外国語部会）

自分の考えや気持ちを、外国語を用いて主体的に伝え合おうとコミュニケーションを図ろうとする態度を育むための授業のあり方

II 研究（実践）の内容

1 単元名 誕生日やほしいものを伝えよう

(New Horizon Elementary 5 Unit 2 When is your birthday?)

(1) 単元目標

- ・自分のことを伝えたり、相手のことを知ったりするために、誕生日やほしいものなどについて、短い話を聞いて、その概要が分かったり、伝え合ったりできる。

- ・外国語の背景にある文化に対する理解を深める。
- ・アルファベットの活字体の小文字を読んだり書いたりできる。

(2) 言語材料

【表現】 When is ～? My birthday is ～. What do you want for～? I want ～.
 Happy birthday. This is for you. Here you are. Thank you. など
 ＊日本のすてき（映像） Let's go to～. Are you ～? I'm～. Where are you from?
 I'm from～. I live in～. This is ～. You can～.

【語彙】 月（January, February, など） 日付（first, second, など）
 衣類（T-shirt など） 状態（new, big など） 日常生活（ball など）
 Sweden, Japanese, gardener, trees, plants, garden, pine trees, apricot trees,
 maple trees, spring, fall、difficult,

(3) 評価の観点

知識・技能	知識	◎[When is ～? My birthday is ～. What do you want for～? I want ～. 及びその関連語句など] について、理解している。（「聞くこと」） ○アルファベットの活字体の小文字について、理解している。（「読むこと」）
	技能	◎誕生日やほしいものなどについて、聞き取る技能を身につけている。（「聞くこと」） ○[When is ～? My birthday is ～. What do you want for～? I want ～. 及びその関連語句など] を識別したり、その名前を発音したりする技能を身に付けている。（「読むこと」） ◎誕生日やほしいものなどについて、[When is ～? My birthday is ～. What do you want for～? I want ～. 及びその関連語句など] を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。（「話すこと（やり取り）」）
思考・判断・表現		○自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、誕生日やほしいものなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちを伝え合っている。（「話すこと（やり取り）」）
主体的に学習に取り組む態度		◎自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、誕生日やほしいものなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちを伝え合おうとしている。（「話すこと（やり取り）」） ○外国語の背景にある文化に対する理解を深めるために、誕生日について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちを伝え合おうとしている。（「話すこと（やり取り）」）

(4) 本時案

① 主眼

誕生日について英語で尋ね合う場面で、月や日付けの言い方に歌やチャンツなどで慣れ親しみ、基本的な表現に気付いて尋ねたり答えたりするやり取りを通して、主体的に英語を用いて伝え合おうとすることができる。

② 本時の位置 全8時間中第2時

(5) 指導上の留意点

- ・単元を通して [Let's sing] [Let's Chant] を活動に取り入れ、音声に十分に慣れ親しみ意味理解ができるように繰り返し指導する。
- ・誕生日を尋ねたり答えたりする活動の前に、月日の言い方を確認する時間を十分にとる。
- ・Clear Voice, Eye Contact, などや、友達との関わりでよい姿を具体的に認め伝えていく。
- ・クラス替えをして新しい仲間との生活が始まった子どもたちが、クラスみんながもっと仲良くなるためにバースデーカードをおくろうという単元ゴールについて確認する。

(6) 本時の展開 (修正案)

時間 (分)	学習活動	指導 (JTE/ALT) 評価	準備品
導入 7'	1 あいさつをする。 ○Let's Sing 'Happy Birthday'を歌う。 Months of the year Song を歌う。	1 全体に挨拶をする。 'How are you?' 'What day is it ?' ・Today's Goal , Today's plan を確認する。 ・音声と共に歌う。 ・リズムよく言うことを大切にし、歌えるところを歌うように励ます。	デジタル 教材
展開 10'	2 Small Talk ○JTE と ALT の話を聞いたり、反応したりしながら月日の言い方を英語で考えさせる。 ○「月」「日付け」の単語に慣れ親しむ。	2 誕生日についてのやり取りをし、月日の言い方を確認する。 ・児童に身近な担任の先生などの誕生日を英語で考えさせる。 ・音声を使ってリズムよく「月」「日付け」の単語を一緒に言う。「日付け」は、自分の誕生日が言えるようにする。	写真
8'	○ Key word game 、 Missing game をする。	・ALT の英語を聞いて単語を言えるように繰り返す。	デジタル 教材 PD 絵カード
5'	3 Let's Chant ○チャンツを聞き、歌う。 'When is your birthday?'	3 チャンツを聞いて、内容について質問する。 ・チャンツを示し、聞こえてきた表現を確認したり、チャンツの内容を確認したりする。 ・「誕生日を尋ねるとき」について、どのように表現するか気付かせる。 ・'When is your birthday?'のチャンツでは、最後に自分の誕生日を言うように指導する。 ・自分の誕生日が言えるかどうか、確認する。	デジタル 教材
10'	4 Activity ○誕生日について、友達とたずね合う。 ・隣同士のペアでやり取りをする。	4 JTE/ALT で誕生日を尋ね合うやり取りを示す。 A: Hello. B: Hello. (Janken winner) A: My birthday is ().	

<p>まとめ 5’</p>	<p>・ペアを変えてやり取りする。</p> <p>5 Reflection 授業の振り返りをする。 学習カードに記入する。</p>	<p>When is your birthday? B: My birthday is (). A: Thank you.</p> <p>・ペアで発表する。やり取りをする姿でよかった点に気付かせる。(Eye Contact, Clear voice,) ・ペアを変えて、やり取りさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>自分や友達の誕生日について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、主体的に伝え合おうとしているか。</p> </div> <p>5 本時の学習で、できたこと、友達の姿でよかったことなどを振り返り、学習カードに記入させる。 「友達の誕生日がわかり、楽しかった。」 「友達に誕生日を聞くことができて、うれしかった。」 「自分の誕生日をいうことができた。」 「月の言い方が難しかったので、もっとしっかり言えるようになりたい。」 ○児童からの気付きで、英語を使ってやり取りできたことなどについてよかった点を発表してもらおう。 ○次時の意欲につながるように、児童のよかった点を認め励ます。</p>	<p>振り返り カード</p>
-------------------	---	--	---------------------

2 主事の先生からご指導いただいたこと

(1) 良かった点

- ・ Let's Sing Months of the year は、適切な教材だった。場面をかえて、月の言い方に慣れ親しみ繰り返しいろいろな歌い方ができるように工夫があった。
- ・ 子どもたちの「知りたい」という気持ちを引き出せていてよい導入になった。子どもたちの気持ちをひきつけるクイズの形式などもあり、子どもたちはいろいろな英語で反応しながら英語を身に付けていこうとしていた。
- ・ 中間発表があったため、シェアリングでき中間評価することができた。子どもたち同士も良さを見つける機会となった。Oh,I see.などの reaction 表現が使えていた良さに気付かせることができた。

(2) 改善していく点

- ・ Today's Goal では、何ができるようになっていけばいいのかを示す。
- ・ 子どもが答えられないとき、教師が教えてしまうのではなく、周りの子が教える場面があってもよい。
- ・ 一人一人が英語を聞き取れているかを把握するための指導を工夫する必要がある。
- ・ ほしいものを友達に聞くとき、What color do you like? と聞いたりして、「相手が喜ぶようなプレゼントをしてあげたい」「友達に喜んでもらえるようにバースデーカードを作ろう」など、子どもからのいろいろな考えを引き出して、単元ゴールを設定していく。

Ⅲ まとめと課題

(1) 授業を振り返って（成果）

- ・ 導入場面で行った担任の先生方について問うクイズ形式での small talk は、子どもたちの興味関心をひきつけ英語を聞いたり答えたりするよい活動になった。
- ・ Unit Goal があり、それに向かう本時の Today's Goal が明確になっている。活動の見通しとしての Today's Plan が位置付いていて、めあてのはっきりした授業になっていた。
- ・ 授業の振り返りカードに、「自分の誕生日を伝えて、友達誕生日を知ることができて楽しかった。」「友達の誕生日を知れてよかった。身近な人でも、誕生日を知っていなかったと思った。」「友達と もっと英語で話せるようになりたい。」など書いてあった。友達とのつながりを広げ、かかわり合いができる子どもたちだった。
- ・ 教師(JTE/ALT)のやりとりを聞いたり基本表現を使ってやりとりする活動を取り入れたりして、子どもたちは、誕生日についてたずね合う活動に楽しそうに取り組んでいた。

(2) 今後の課題

- ・ 積極的に取り組む子とそうでない子との差があった。一人一人に寄り添った支援をより具体的に工夫をする。
- ・ 本時のめあてについて、つきたい力と評価の観点や評価場面を考え設定していく。
- ・ 単元を通して基本表現を使う場面を繰り返し設け、子どもが英語でやり取りする楽しさを感じたり、自分の考えや気持ちをしっかり持ちそれを表現したりできるように、スモールステップを踏んだ指導改善を図る。
- ・ 子どもが目的意識をもち主体的に学ぶために、「自分の考えや気持ちを伝えたい。相手の考えや気持ちを聞きたい。」という思いにつながる単元ゴールを子どもたちと考え設定していきたい。例えば、Unit2「誕生日やほしいものを伝えよう。」では、みんなの誕生日と誕生日にほしいものをまとめていく「誕生日カレンダーを作ろう」という単元ゴールをすすめる。「こうしたい。」「おもしろそう。やってみよう。」という子どもたちの「願い」を中心にすすめていくような工夫をしたい。

2 上田市立東塩田小学校の実践に学ぶ(1)

I 研究テーマ 学習内容を身近に感じられる活動のあり方について

II 研究テーマについて

4 学年の子ども達は、毎時間の英語の授業で歌を歌ったり、話したりすることを楽しんでいるように見える。しかし、実際の生活の中で英語を使うことはほとんどなく、挨拶をするときに「ハロー」と言う程度だ。本当は私たちの身の回りには英語に関わることがたくさんあり、それが自分達の生活と繋がっていることに気付いたら、もっと興味をもち、学習が深められるのではないかと考えるようになった。

委員会の研究テーマ「新学習指導要領に基づく、主体的・対話的で深い学びを実現するための外国語・英語学習のあり方～小中連携を通して」をふまえ、学習することと現実が繋がれば、日常生活の中でも英語をより意識するのではないかと考え、実践を行うことにした。

III 研究（実践）の内容

対象学年：4 学年 単元名：Unit6 Alphabet アルファベットで文字遊びをしよう

単元目標

- ・身の回りには活字体の文字で表されているものがあることに気づき、活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。
- ・身の回りにあるアルファベットの文字クイズを出したり答えたりする。
- ・相手に配慮しながら、アルファベットの文字について伝え合おうとする。

＜「②子ども達の願いに即した単元構想のあり方」に関して＞

アルファベットの活字体に慣れ親しむためには、教科書の中だけではなく、私たちの周りにはアルファベットがたくさんあることに気付くべきだと考えた。そこで、導入で「Sign Quiz」を行った。子ども達が知っているような道路標識や看板、製品のロゴなど、小文字を使った英語表記のものを取り上げ、クイズ形式で紹介した。写真を見せると、「知ってるー！」と多くの児童が声を上げ、何と書いてあるのかを読もうとしたり、一文字ずつ読んだりする姿が見られた。



数問クイズを出すと、自然と身の回りの物に目を向け始め、筆箱や友達のTシャツに小文字が使われていることに気づき始めたので、教室にある小文字をみんなで探すことにした。文房具やダンボール、教室の隅々までよく見ながら探すと、様々なところで小文字が使われていることがわかった。

小文字の形や何と読むのかを覚えるなどの単なるアルファベットの学習ではなく、自分たちの身の回りには意外とアルファベットが隠れていて、生活に関係しているということに気づいてほしいという願いから、このような導入を行った。見つけたアルファベットは、見つけて終わりではなく、何と書いてあるのか読もうとしたり、どこまでがひとまとまりなのかを考えたりする姿から、教科書に書かれている文字を読むよりも、自発的にアルファベットを読もうとする意識があったと思う。

IV 研究（実践）のまとめと課題

今回は学習内容をより身近に感じるために、学習内容と生活の中にある物を繋げる活動について考えた。クイズ形式で小文字を使った標識等の紹介をしたことによって、子ども達の身近な話題を取り上げ、広げていけば、自然と興味を示すのではないかと実感した。

しかし、単元の内容によっては準備が負担になってしまうことがあると思うので、デジタル教材を有効活用したり、ALTとのやりとりを充実させたりする必要がある。また、小中連携を意識して活動を考えていくことができなかったのが、発達段階に応じながら、見通しをもって活動を考えていくことを今後の課題としたい。

私は、外国語活動の授業を考える時、「子ども達には楽しみながら、英語を学んでもらいたい。そのためには、印象に残ることをしなくては…」と思うことがある。もちろん、楽しみながら学習するために自分で活動を考えられれば良いのだが、日々の生活の中では難しいこともある。今回感じたことは、単元目標

を確認し、全体の流れを決め、1時間1時間のめあてをしっかりと把握しておけば、特別な活動がなくても工夫次第で学びを深められるのではないかと思った。今後も学習内容が生活に生きるような実践を重ねていきたい。

3 上田市立東塩田小学校の実践に学ぶ(2)

I 研究テーマ 小学校外国語科における過去形の導入と定着について

研究の概要

- ・教科書において時制についての説明はなく、規則・不規則動詞関係なく導入される。
- ・目的・場面・状況への「気づき」、それを促す練習とインタラクションが文法をコミュニケーションに結び付け、体験的理解を促す
- ・来年度導入の中学新教科書では、はじめは小学校で学習した文法事項の補充・関連して指導される。

II 研究内容

1 教科書における過去形の導入と定着

小学校では文法学習は行いません。過去形の導入はもちろん、小学校外国語授業での文法指導では、「コミュニケーションを行う目的、場面、状況」を設定して、「必要性和有用性を実感」させようとして、「規則性や構造」に気づきを促すことが求められ、過去形を学習する場合、動詞の語尾に-edをつける操作や、不規則動詞の形を覚えることではなく、日記や物語を書いたり、夏休みの思い出を話したりすることだと再認識させられる教材の提示が必要である。

教科書 NEW HORIZON Elementary 6 では、2学期の最初に Unit4 Summer Vacation in the World で初めて過去形が導入される。

Starting Out (出会う) において、「目的・場面・状況」を表す音や映像を視聴して、「気づき」を促します。登場人物の夏休みについて過去形を使った説明を聞く。How was your summer vacation? What did you~? I went / enjoyed / ate / It was~. この活動では紙面に登場人物の絵がついているので、内容が聞き取れなかったとしても、ある程度理解される。また、その後の教師による He went to the mountains with his family, などの英語の説明で確認が補充されよう。

教科書用辞書 **Picture Dictionary** では「したこと」として語彙がまとめられている。went, ate, enjoyed, had, saw 動作の一部として扱われ、過去形の表示はなく、夏休みなど過ぎ去ったできごとを表現するごく扱いである。

Enjoy Communication では、「夏休みの記録メモ」を作成し、「夏休みの思い出を紹介しよう」の活動を行う。Small Talk において、教師の What did you eat? の質問に対し、I ate ramen. It was delicious. と答えるなどインタラクションを繰り返しながら、eat と ate の違いを説明することなく、場面で使用するよう心がけ、定着をはかっていく。

Unit7 My Best Memory の表現の言語材料として、We went~. We saw~. I enjoyed. などを使いながら小学校の思い出を振り返る活動が行われる。再度過去形の想起と定着をはかる。

2 インタラクションやプロジェクトによる体験的理解の定着

Small Talk において Did you enjoy your summer vacation – Yes, I do. I went to an amusement park. などのインタラクションが可能である。しかし、Did を使った疑問文を説明するわけなく、毎時間 warming up で行っている「Let's sing」や「Let's chants」で聞き慣れてきた文は理解のきっかけ

となるはずである。また、Small Talk や Starting Out でのリスニングの確かめとして、How was Lucas's summer vacation? Where did Lucas go? - He went to the sea. Did he enjoy fishing? No, he did not. He enjoyed swimming. What did he eat? He ate ice cream? No, watermelon. など説明することなく少しずつ定着をはかった。

Enjoy Communication(プロジェクト) 小学校では言葉による文法よりも、体験的理解が大切と考える。「夏休みの思い出を紹介しよう」というスピーチ発表のプロジェクトに向けて、まず「夏休みの記録メモ」の作成をする。コミュニケーションカードには英文を書かず、自分の表現したいことを絵にして、それを見ながらスピーチをおこなう。Let's Read and Write でこれまで書き留めてきた「わたしのせりふ」を参考にして作成するが、自分の夏休みのスピーチ発表ということでプロジェクトによる体験的理解を通して自然に過去形の理解の定着に進むと考える。

振り返りカードによって、体験的理解や気づきに遅れがちな児童の支援に役立つ。振り返りカードを発表させることで、友だちの気づきを共有できる。「食べたことをいうのは ate でいいんだ」「夏休みに行ったことというには went を使う」など、その授業で気づかなかった児童も振り返りカードの記入や発表によって体験的理解の仕方を学習していくだろう。

3 中学校との連携

小学校では、「音から文字へ」「表現から文法へ」と指導が進みます。中学校では聞いたり話したり「音」の活動から入るのが効果的です。文法でも小学校で表現として覚えたものを、中学校でできるだけ早く取り上げ、文法として整理することが大事です。

中学入学当初はできるだけ小学校で習った、目的・場面・状況に合う文法が使えるように復習する必要があります。その後、例えば楽器の前に the をつける説明を聞いて、小学校の学習や復讐の体験的理解が「そうだったんだ」と確認されるだろう。

新教科書では、小学校英語の教科化への対応として、入学から夏休みの期間にかけて、小学校の学習を中学への学習へとつながれる題材、内容になる。そのため中学では小学校の教科書の指導内容やアプローチ方法をよく理解して、中学の指導を進める必要がある。

4 上田市立塩川小学校の実践に学ぶ

I 研究テーマ 主体的に互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動の工夫

II 研究テーマについて

4年生の子どもたちは外国語の授業が大好きで、週1回の授業を心待ちにしている。今年度から本校に来ているALTの先生がとても明るく陽気であるため、子どもたちは毎時間元気に歌やチャンツを歌ったり、ゲームを楽しんだりしている。

しかし、その一方で、個別にALTの先生に話しかけられると、何と云っていいのか戸惑い、うまく答えられない子もいる。練習不足や自信のなさが原因とみられるが、もっと楽しんで元気に話してほしいと願っている。どのような活動を仕組んでいったら子どもたちが楽しく意欲的に言語活動に取り組めるのかを考え、実践していくことにした。

Ⅲ 実践の内容

対象学年：4 学年 単元名：Unit7 「What do you want? (何がほしい?)」

- 単元目標**
- ・食材の言い方や、欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。
 - ・欲しい食材などを尋ねたり要求したりするとともに、考えたメニューを紹介し合う。
 - ・相手に配慮しながら、自分のオリジナルメニューを紹介しようとする。

本単元では、最初に野菜や果物などの食材の単語の言い方に慣れ親しんだ。ミッシングゲームやカルタ取り、歌やチャンツなどを通して、子どもたちは食材の単語をほとんど言えるようになった。

そして、本単元で最も大事なキーセンテンスである「What do you want?」を繰り返し練習することで、スムーズに言えるようになった。そして、さらにこの「What do you want?」を使って子どもたちが意欲的に話す活動をさせたいと思い、教科書に付いている単語カードを用いてのお店屋さんごっこを行った。

【お店屋さんごっこのやり方】

- ① 4人グループを作り、それぞれが持っている食材カードを一つにまとめ、机に並べる。
- ② 4人グループをお店屋さん2人とお客さん2人に分ける。
- ③ お客さんはそれぞれのお店を自由に回って、食材カードを集める。
- ④ 10分経ったら、お店屋さんとお客さんの役割を交代する。
- ⑤ 終了後、集めた食材カードを友達に戻す。

(Hello! Hello!)

店：What do you want?

客：I want apple.

店：How many?

客：Three apples.

店：Here you are.

客：Thank you.

(Bye! Bye!)



この活動は、子どもたちにとって大変楽しい活動となった。時間いっぱい何回でも空いているお店を尋ね、英語でのやり取りを十分に楽しんだ。子どもたちが書いた感想には、「今回のお店屋さんごっこが今までで一番楽しかった」「英語で話すのがとても楽しかった」「スラスラ言えてうれしかった」などと書かれていて、満足のいく活動だったこと分かった。

IV 実践のまとめと課題

今回は子どもたちが意欲的に取り組める言語活動について実践した。この活動が成功した要因は以下の点にあると思われる。

- ①会話の中で使われる単語やフレーズをチャンツやゲームなどを通して繰り返し練習したこと。
- ②「お店屋さんごっこ」という子どもたちには分かりやすい設定をしたこと。
- ③お店屋さん2人、お客さん2人というように複数にしたこと。
- ④カードという半具体物を用いたこと。
- ⑤子どもたちに活動の主体を任せ、何回も繰り返しやり取りしたこと。

一人だけだと、言い方に自信のない子は不安を感じてしまうが、二人いれば一緒に発話することもでき、自信を持って大きな声で言うことができる。何回も繰り返して友達とやり取りしていくうちにいつの間にか一人で言えるようになっていた子もいた。やり方を示し、理解させれば、子どもたちは自分たちで生き生きと活動を始める。そのことを今回の実践を通して学ぶことができた。

今回のように児童が意欲的に取り組める言語活動をどの単元でも仕組んでいくことが必要だと実感した。単元の最初では難しいが、単元の終わりでは、その単元で習熟したフレーズを用いて、子どもたちが意欲的に言語活動をすることは可能である。今回の実践を今後の実践に生かしていきたい。

5 上田市立丸子北中学校の実践に学ぶ

英語科学習指導案

令和2年9月9日(水) 第3校時 3階多目的室
授業学級 1年3組
授業者 百瀬一紀

1 単元名 Unit6 オーストラリアの兄 (NEW HORIZON 1)

2 主眼

お気に入りの人物を PR するポスターを作る場面で、友と互いの PR 文を紹介し合うことで英文に修正を加えたり表現を取り入れたりすることを通して、PR 文を動詞の形や語順に注意してより豊かな表現を目指して英語で書くことができる。

3 本時の位置 (全9時間中第3時)

前時：紹介したい人物のアイディアマップをもとに、英語で PR 文を書く。

次時：PR ポスターを完成させる。

4 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導・援助 評価	時間	備考
導 入	1 教科書 Part1 本文を音読し、 復習をする。	ア 教科書ではあの兄弟の紹介文 を読んだ。動詞の形に注意が必要 だった。	◇教科書を範読し、前時の学習内 容が復習できるようにする。	10 分	生徒の PR 文
	2 友が書いた PR 文を読み、ど んな人物を紹介 したか、どのよ うな表現を使っ ているか共有す る。	イ いろいろな人を選んで書いてい るんだな。自分とは違う表現を使 っている。参考にできることがあ りそうだ。	◇教師が生徒の PR 文を提示する。 いくつか紹介しながら、本時の 活動のイメージを持たせ、 Today's Goal を設定する。		
Today's Goal : PR 文を読み合っ て、より良い PR 文を完成させよう。					

展 開	3 一人の PR 文を 3 人グループで順番に紹介しあい、PR 文に修正を加えたり、文法に関するアドバイスを伝え合ったりする。	ウ 動詞の形が正しく書けているか確認しよう。主語+動詞の語順で正しく書けているかな。 エ 友達の PR 文を読むと、自分の書いた文との違いがわかる。every day や very well などの表現が加えられそうだ。 オ 友達の書いた PR 文を読むことで表現が広がりそうだ。So がいいな。	◇ 1 人の PR 文を 3 人グループで紹介しあうように指示する。 ◇ 友の発表を聞いて、自分の PR 文に赤ペンで修正や追加をする。 ◇ ① 3 単現の s が正しく使われている②主語・動詞などが正しい語順で並んでいる③文の書き方は正しい、の 3 観点を与え、ホワイトボードを見せ合いながらアドバイスし合うように指示する。	15 分	PR 文 ホワイトボード 赤ペン
	4 グループを替えて、お互いの PR 文を読む。	カ 自分の感想を PR 文に取り入れると、読んでいてわかりやすい内容になる。	◇ 3 人組を替え、ホワイトボードを見せ合いながら、赤ペンで修正や追加をするよう指示する。 ◇ PR 文の変化を取り上げながら、全体で共有する。	15 分	
終 末	5 友から受けたアドバイスをもとに、PR 文を完成させる。	キ 動詞の形を注意してもらえた。 ク アドバイス受けたことを使って PR 文を完成させよう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">完成した PR 文例 He is a member of EXILE. He dances very well. So he is famous and great. He likes cooking. And he cooks breakfast every day. It is delicious.</div>	◇ 修正を加えたホワイトボードを元に、PR 文をワークシートに書き写すよう指示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">動詞の形や語順に注意してより豊かな表現を目指して英語で書くことができる (ホワイトボード、ワークシート)</div>	5 分	ワークシート
	6 本時の振り返りをする。	ケ 動詞の形に注意して PR 文を書き直すことができた。 コ 情報交換をすることで、よりよい PR 文をつくることができた。	◇ ホワイトボードを黒板に掲示し、修正や追加の様子を振り返る。 ◇ ワークシートに振り返りを記入するよう促す。	5 分	ワークシート

5 実証の観点

- ・ホワイトボードを用いてお互いの PR 文を紹介しアドバイスし合うことは、自分が PR したい人物を正しい文法を用いてより豊かな表現で書くことにつながったか。また、可視化や共有化の観点から効果のある活動であったか。
- ・ホワイトボードを使った活動の流れや指示は、生徒にとって単純で取り組みやすい内容であったか。

校内研究授業・研究会・研修会感想より

1 英語科の研究授業から学んだこと、教科に取り入れたいこと

- ・ホワイトボードを利用した学習活動
- ・3 組の生徒が日常の授業から学んであった英文に関連づけて自分の PR 文をあれだけ表現しようと一生懸命な姿が勉強になります。日頃の関わらせ方が英語科の先生方が努力されていると感じました。
- ・話し合いのグループ活動は、生徒同士のつながりも見られ、可能な範囲で数学にも取り入れたいと思いました。教師対生徒ではなく、生徒同士の学び合いは情報量も多く有効だと思った。
- ・研究授業を参観させていただき、今後、自分の授業に取り

簡単ホワイトボードづくり

- 1、A3 コピー用紙をラミネートする。(使用しないときには机の裏にペタ！)
- 2、裏面に磁石をはる。

できあがり！！

赤・黒のペンと激落ちくんは学年費で全員分購入

入れていきたい点がたくさん有りとても勉強になりました。百瀬先生が活動の手順をその都度黒板、TV、ワークシート全てに書いて提示していた点ですが、家庭科は活動の流れが理解できてい

ないことが事故につながったりすることがあるので、今後、私も説明の際実践していきたいと思いました。また、本時の授業の活動そのものですが、間違えやすいポイントを友達同士で確認し合うことは、子どもたちの印象に残りやすく、記憶に残りやすいと思うので、有効と感じました。百瀬先生が、子どもたちの発言を繰り返して説明している点もわかりやすく良かったです。素敵な授業ありがとうございました。→**授業のユニバーサルデザイン化とは全ての生徒が学びに喜びを感じる授業。全ての生徒が何らかの形で授業に見通しをもち追究できる。その手法が視覚化、焦点化、共有化ですね。**

2 研究会を通して、ご自身の授業を振り返り今後にかしたいこと

- ・授業のめあての焦点化
- ・ホワイトボードは失敗を気にせず記入でき、お互いに見せ合うときも、ノートより遙かに見やすいと思いました。

3 本校の重点活動についてご自身が取り組んできたこと

- ・生徒の書いた英文の中で良いものをその場で発表させて、共有したりワードに打ち込んだりしてプリントアウトし配布、共有している。→**実物投影機、ホワイトボードの機器を使ったり、グループワークの中で考えを出し合ったりなど共有化の取り組みは様々です。**

4 本校の授業を行う上での課題やもっとこんな環境だったらいいああとと思うこと

- ・全学級の教室へテレビを設置すること。移動式ではなくて常設されていると使い勝手が良い。
- ・テレビ画面がもう少し大きいと良い。
- ・Wifi、据え置き TV、タブレット
- ・クラス単位よりも少人数での授業があればもっと理解の深まる生徒・参加しやすくなる生徒が増える。
- ・家庭科室は、前から後ろの席までが遠く、どうしても後ろの席の方が声が届きにくくなってしまったり、TV 画面や黒板の字が見えにくくなったりしがちです。自分自身で気をつけていくべきだと思い、授業で改善できるよう意識はしていますが…。

5 新指導要領全面実施に向けて、教科の課題となること、これから改善していかなければならないこと

- ・単元毎の評価をどうしていくか、単元プリントの活用、単元毎の can do リストによる評価。定期テストはどうなるか。
- ・今までの定期テストを大きく評価に反映させることができなくなってくる。単元毎の評価をしていくときに、単元毎に評価テストをやった方が評価しやすい。単元毎の評価テストをどのように実施していくか。また、定期テストをどのようにしていくか（回数、内容）

6 来年度からの学習の評価のあり方で疑問に思ったこと

- ・これまでの指導を改め、評価とつながる授業のあり方を模索していくこと。単元展開の構想と評価の方法を考えること
- ・文章表現の力がないと評価カードの記入からは良い評価もらえないのですね。逆は見抜けると思いますが。国語の力が大事とご指導より感じました

7 授業のユニバーサルデザイン化に向け、課題となること、今できていること

- ・教室環境、**学力低位生に配慮した**授業進度、確認、声かけ等
- ・UD 化に向け、先生方の視聴覚機器を使った授業展開に日々感心しています。一方で基本的な手元の支援、指導が大切であるとも思います。
- ・できない生徒への支援。ボトムアップ
- ・家庭科では、手縫いはテレビ画面で画面を映せるのですが、ミシンの細かい部分はやはり映すの

が難しく、今良い方法はないか検討中です。

8 その他

- ・ペーパーテスト実施の際の比重。知・技と思・表・判の割合やそのテスト問題作成には、試行錯誤が必要とかなり感じます。

6 上田市立第五中学校の実践に学ぶ

I 研究内容

実際に英語を用いて、主体的に互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動の工夫

本校では、1学期途中より、ALT が不在である。しかし、「ALT と共に、本物の英語に触れながら、英語を学習して欲しい」という教員の願いから、総合教育センターの ALT とインターネットを通じて、繋がりを持つことができた。ALT からメッセージビデオを送ってもらい、そこから、「ALT と Web 会議システムを通じて話す」という単元を設定した。

キーワード 「話すこと [発表] における評価

- 【学 年】** 中学校第一学年
- 【単 元 名】** New Horizon English Course1
Unit 8 イギリスの本（8時間扱い）
- 【領域別目標】** 「話すこと [発表]」ア
- 【単元の目標】** 日本語を勉強しているゲストティーチャーに「読んでみたい」と思ってもらえるように、おすすめの本について、あらすじや登場人物、おすすめする理由など、簡単な語句や文を用いて即興で話すことができる。

【評価規準】 話すこと [発表] ア

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<知識> 疑問詞 where, whose、代名詞 him, her を用いた文の構造を理解している。 <技能> おすすめの本について、代名詞 him, her などの簡単な語句や文を用いて即興で伝え合う技能を身に付けている。	日本語を勉強しているゲストティーチャーに「読んでみたい」と思ってもらえるように、おすすめの本について、あらすじや登場人物、おすすめする理由など、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合っている。	日本語を勉強しているゲストティーチャーに「読んでみたい」と思ってもらえるように、おすすめの本について、あらすじや登場人物、おすすめする理由など、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合おうとしている。

【主な学習活動と留意点】

前單元からのつながり：教科書の登場人物マリアについて分かったことを伝えた。(Unit 7)

- ・Unit 7 で新たに出てきたキャラクター、マリアについて、教科書を読んで分かった

時間	学習活動 (時間)	留意点
1	<p>1 オリエンテーション (1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元の目標を理解する。 ・ゲストティーチャーからのメッセージビデオや教師のモデルを見て、グループでおすすめの本を考える。 	<p>単元の見通しをもつ場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ゲストティーチャーからのメッセージビデオや教師のモデルを見て、見通しをもつように促す。
Lesson Goal : ゲストティーチャーに「読みたい」と思ってもらえるようにおすすめの本を紹介		
2	<p>2 おすすめの本を決め、情報を整理する。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝える相手のことを考えて、おすすめの本を決める。 	<p>相手意識を持って考える場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ゲストティーチャーに興味をもってもらうためにはどんな本がよいかを考え、伝える情報を整理する。
3	<p>3 校内の教職員、友だちに「私のおすすめ」を紹介しながら、紹介に必要な表現を身に付ける(5)</p>	<p>必要な表現や紹介の仕方を身に付けていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞必要に応じて練習も行うが、ペア活動やグループ活動などの言語活動を通して、表現を使いながら身に付けていく。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間帯活動として、本や映画など「私のおすすめ」を紹介するショートスピーチを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ☞Look / Do you know ~? It's a story of~. / It has~/ The character(s)~. He/She/They~. / We love ~ in the book.
5	<ul style="list-style-type: none"> ・本文の内容理解を図るとともに、話の切り出し方やあらすじの伝え方など、教科書の本文の表現を引用しながら紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☞校内の教職員と Web 会議システムを通じて話すことで、単元終末の活動と同じ状況で話せるようにする。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・Web 会議システムを通じて校内の教職員におすすめの本を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ☞伝える相手に配慮しながら、目的や場面、状況に適した表現を用いて紹介する。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を利用し、話している様子を録画する。 ・メッセージビデオを撮影し、ゲストティーチャーへ送る。 	<ul style="list-style-type: none"> ☞タブレット端末を利用して、話している様子を録画しながら、自分の紹介を見直す。 ☞紹介が上手いかなかった場面や言えなかった表現を共有し、自分の考えを相手に分かりやすく伝える方法を考える。
8	<p>4 ゲストティーチャーへ本を紹介する。(1)</p>	<p>ゲストティーチャーにおすすめの本を紹介する場面</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ゲストティーチャーに興味をもってもらえるように、Web 会議システムを通じて、グループごとにゲストティーチャーにおすすめの本を紹介し、コメントしてもらう。

次單元へのつながり：伝統文化について伝えるレポートを書く。(Unit9)

相手が理解できるように、情報を整理して、伝統文化についてまとめる。→書く

本時案

(1) 本時の位置 8時間扱い中の第5時

(2) 本時の主眼

校内の教職員に「私のおすすめの本」をWeb会議システムを通じて伝える場面で、グループで自分の考えや気持ちを相手に分かりやすく伝える方法を考えたり、タブレットで撮影した自分の紹介を見返したりすることを通して、相手に「読んでみたい」と思ってもらえるようにおすすめの本を紹介することができる。

(3) Today's Goal (point)と本時の評価

・Today's Goal

相手に読んでみたいと思ってもらえるように「おすすめの本」を紹介しよう

・Today's point

条件1：簡単な語句や文を用いて即興で伝える。

条件2：相手が興味を持ってくれるように、あらすじや登場人物、すすめする理由などを伝える。

伝える相手に配慮しながら、相手に適した表現を使ったり、相手の反応を確認したりしながら伝える。

本時の評価

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
A	誤りのない正しい英文で話すことができる。	伝える相手に配慮しながら、相手に適した表現を使ったり、相手の反応を確認したりしながら、2つの条件を満たして話している。	伝える相手に配慮しながら、相手に適した表現を使ったり、相手の反応を確認したりしながら、2つの条件を満たして話そうとしている。
B	誤りが一部あるが、コミュニケーションに支障のない程度の英文を用いて話すことができる。	2つの条件を満たして話している。	2つの条件を満たして話そうとしている。
C	「B」を満たしていない。	「B」を満たしていない。	「B」を満たしていない。

段階	学習活動	予想される生徒の反応	教師の支援・ 評価	時間
導入	1. Teacher Talk			5
	2. Today's goal/point の設定	Today's goal: 相手に読んでみたいと思ってもらえるように「おすすめの本」を紹介しよう。	Today's point: ・相手に話すときに大切なことは何かを確認する。	
①簡単な語句や文を用いて即興で話す。 ②相手が興味を持ってくれるような情報を話す。 ③相手に適した表現を使ったり、相手の反応を確認したりしながら話す。				

展 開	3. Understanding today's conversation partner and thinking of how to and what to talk in a short time.	<ul style="list-style-type: none"> 今日はどんな先生と話すんだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 今までの活動を想起させながら、今日の設定を伝える。 	
	4. Talking with the partner	<ul style="list-style-type: none"> 初めて会う人にはどんなことを言えばいいかな。 どんな風に話を始めればい 	<ul style="list-style-type: none"> 設定を確認し、どのように伝えるかを考えるように促す。 1分間、個人で考えた後、ペアで伝え合うことを伝える。 英文や英語など、文字を書かずに、伝える内容を考えるように促す。 	2
開	5. Discussing how to and what to talk in groups and talking in the group.	<ul style="list-style-type: none"> 初めに、自分の名前を伝えてから話してみよう。 Nice to meet you. も挨拶で使えるといいな。 自分が話しているのを見ると、話すスピードも速すぎるかもしれないな。 日本語が全く分からない相手には、日本語のタイトルはゆっくりと伝えると伝わりやすいかな。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ内で話す様子をタブレット端末で撮影し、自分の紹介を見返すように促す。 グループ内での躓きや、よい表現を取り上げ、共有する。 	15
	6. 中間評価	<ul style="list-style-type: none"> 相手に質問するのもいいな。 早く話してみたいな。 	<p>評価①：相手に適した表現を使いながら、話し相手が興味を持ってくれるような情報を簡単な語句や文を用いて即興で話している。</p>	
ま と め	7. Talking with the teacher online .	<p>期待する生徒の発表例 Hello, I'm ~. Nice to meet you. Do you know this book? This is "Guri and Gura". "Guri and Gura". OK? It's a story of two mice. They are so cute. Do you like it? Thank you.</p>	<ul style="list-style-type: none"> 校内の先生と Web 会議システムを通じて、おすすめの本を紹介する。 発表の中でのよいポイントを取り上げ、全体で共有する。 	18
	8. Reflection.	<ul style="list-style-type: none"> 緊張したけど、自己紹介や初めて会う挨拶を使いながら話すことができた。 話せてうれしかった。ジャナ先生とも早く話してみたいね。 	<ul style="list-style-type: none"> Today's Goal, Today's Point を全体で確認しながら、振り返りを記入するように促す。 数名に発表してもらい、振り返りを全体で共有する。 	5

3 研究（実践）のまとめと課題

1 どんな場面・目的を設定するか

どんな状況で、どんな目的で、どんな相手に伝えるのかで使う表現や伝え方が変わってくる。場面設定の重要さをとても強く感じた。

日本文化に興味がある A L T に紹介する本を考える時に、初めは、今人気がある漫画や、自分の好きな

本を選ぶ生徒がほとんどであった。しかし、ALTが「日本語を勉強中であること」や「難しい日本語をたくさん読むことは大変であること」がわかると、相手にとってどんな本をすすめるべきか、考え直す姿があった。

「やっぱり、文字が多いと読むの大変かな?」「絵が多いといいんじゃない?」「ひらがなが多いといいかも?」

といった言葉も聞かれた。その結果、「絵本」を紹介することになった。実際に本を紹介する場面でも、伝える相手によって、声の大きさやスピード、繰り返す箇所を変えたり、初めて会う相手には初めて会う時の挨拶を取り入れたりする姿が見られた。適切な場面や目的を設定することで、使用する言語も生きた言語になってくると感じた。

2 Lesson Goal に向かう教科書の扱い方

教科書でもこのUnitではインターネットを通じて、本を紹介している場面がある。教科書の場面と似た状況での言語活動を行うことで、教科書の扱い方についても考えることができた。教科書の日本語訳を確認するのではなく、「どんな風に話を切り出しているか」や「どんな情報を伝えているか」、「そのためにどんな表現を使っているか」といった側面から教科書の本文に触れることができた。生徒もLesson Goalに向けての必要感を持って教科書の本文と向き合う姿があった。

3 「できるところまで」を繰り返しながら、力をつける

Lesson Goalに向け、タブレットを使用して自分の話す様子を見返したり、校内の教職員とWeb会議システムで話したりする活動を行った。そういった活動では、話す内容を全て考え、まとめ終わってから取り組みたがる生徒が多いが、「話を切り出すところまで」「タイトルを伝えるところまで」「登場人物について伝えるところまで」といったように段階的に「できるところまで」を繰り返しながら言語活動を行った。そういった取り組みをしていくことで原稿を暗記するのではなく、その場で即興的に話す力の育成に繋がったと感じる。「話している内容は同じでも、表現の仕方は色々あり、毎回同じに英語にならなくてよい。」といった感覚を生徒が持つことができた。

4 課題

新学習指導要領に基づき、どんな力をつけるべきか、そのためにどんな評価をしていくかを明確にしていく必要がある。また、単元の目標だけでなく、評価の観点を生徒と共有することも、主体的・対話的で深い学びにつながるのではないかと思う。適切な場面や目的を設定することで、生徒の思考力や判断力、表現力が伸びていくと感じる。知識・技能（正確さ）と共に、バランスを取りながら、4技能を統合した力の育成につながる方法をこれからも考えていきたい。

7 東御市立柵津小学校の実践に学ぶ

1 研究テーマ

新学習指導要領に基づく、主体的・対話的で深い学びを実現するための外国語・英語学習のあり方
～小中連携を通して～

2 研究内容

①小中連携を意識した書くことの活動のあり方

・語を音声でたくさんinputし、繰り返し発音練習し、既習表現の中で使う事を経験した上で、行

うようにしている。

- ・ Picture Dictionary や Digital Book での発音練習時、絵と同時に文字も見ながら発音している。
- ・ 6年生は、Unit の Enjoy Communication の part で使用する表現を、Let's read & write 巻末 page で書きため presentation の準備をしている。
- ・ HRT の授業時に副教材を使用し、音声と書くことをつなげる学習をさせていただいている。
- ・ 専科が副教材を使用し、音声と書くことをつなげる学習をしている。
- ・ 5年生でアルファベット大文字、6年生で小文字を書けることを目指し練習している。

②実際に英語を用いて、主体的に互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動の工夫

- ・ 単元 goal のあり方を、他教科や行事とのつながりも考慮し設定するようになっている。

ex)5th: Unit 6-北海道&東北 area のご当地グルメを紹介しよう

6th: Unit6-目指せ good balance prize! ~バランスを考えた menu を食材の産地とともに伝えよう

五 研究のまとめと成果

今年度は、コロナ禍で教育課程研究協議会や授業公開などが行われず、他校を参観して実際の授業を見合うことができなかつたため、それぞれの委員が自校での実践をレポートにして提出してもらうという形での研究のまとめとなった。

レポートからは、どの学校でも児童生徒が意欲的に英語での言語活動に取り組めるよう様々な工夫がなされていたことが分かった。

北小学校の実践では、クラス替えがあった5年生が、友達とのつながりを広げ、関わり合いができるよう、互いに誕生日を尋ね合うという活動を行った。

東塩田小学校の実践では、子どもたちにより関心を持ってアルファベットの学習に取り組んでほしいと願い、生活の中にある身近な物と結びつけて、クイズ形式などでアルファベット学習を行った。

塩川小学校の実践では、より意欲的に子どもたち同士のやりとりをさせようと、半具体物を用いてお店屋さんごっこを取り入れ、子どもたち主体の学習を行った。

丸子北中学校の実践では、お気に入りの人物をPRするポスター作りを、各自がホワイトボードに書き、それをグループで修正し合うことで、教師対生徒ではなく、生徒主体の学習を行った。

上田第五中学校の実践では、日本語を勉強しているゲストティーチャーにおすすめの本を紹介するという場面で、相手の立場や状況を考えながら、どう表現したらいいのかを生徒同士で考え合う学習を行った。

柵津小学校の実践では、単元 goal のあり方を、外国語活動だけでなく、他教科や行事とのつながりを考慮して設定し、より児童に身近な学習内容に取り組むことにより、意欲的に学習に取り組めるような工夫がされていた。

全ての実践に共通しているのは、教師主導ではなく、いかに児童生徒主体の学習にしていくかという視点である。そのためには、適切な場面や目的を設定することが非常に重要となる。私たち教師は常にその視点を持って授業に臨んでいきたいと思う。

今年度から小学校では新学習指導要領が実施され、来年度は中学校で全面実施となる。小学校では5・6年で「外国語」が教科となり、学習内容も多くなった。中学校ではそれに対応した授業を模索する必要がある。また、小学校でも中学校での実践からより効果的な指導法を学んでいく必要がある。

児童生徒がより効果的に学習できるようにするためには、小中連携して互いの学習について理解を

深めることが必要である。参加人数や会場のことなどの課題があり、教育課程研究協議会の小中合同開催は難しいが、より多くの先生方が異校種の学習について知る機会を増やしていくことが望ましい。

来年度はコロナ禍が終息し、小中互いに授業を見合い、学び合えることを切に願う。

六 委員名簿

推進係 川口伸哉（東塩田小） 委員長 柳橋学（塩川小） 副委員長 深井信雄（上田五中）

会計 大塚亜耶（東塩田小） 記録 宮崎友紀（祢津小）

長幅美希（田中小） 尾沼美幸（北小） 堀内甲二（丸子北中）